



学校便り「尚徳」6月号

第479号

鳥取大学附属小学校

平成24年6月22日

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



わくわくタイムを始めて

副校長 北村 順子

「わくわくタイムの時間です。班の集合場所に集まって活動を始めましょう。」毎週水曜日の昼休憩に流れる校内放送です。校庭に、体育館に、尚徳の森にと嬉々として子どもたちは散っていきます。

帰属意識の向上や異学年交流を活性化するための方策として、本年度新たに設定した「わくわくタイム」。水曜日の昼休憩を縦割り班（赤・黄・緑各6班、計18班）活動の時間としました。余裕をもって活動できるよう、掃除時間をなくしました。30分間しっかりと活動ができます。活動の企画、運営をするのは班長を中心とした6年生。事前の活動場所・内容の決定、活動時の運営とリーダーシップを発揮していきます。活動場所や内容を小黒板に掲示する色別班活動のコーナーも設けました。

これまでに5回のわくわくタイムを実施しました。幸い毎週好天に恵まれ、ドッジボール、おにごっこ、遊具遊び等外遊びに汗を流す班が多くありました。だるまさんが転んだやハンカチ落とし等懐かしい遊びをする班もあります。水曜日はわくわくタイムという意識が児童の中に定着しつつあります。

定期的に活動を共にすることにより、少しずつで

すが効果も現れてきています。回を重ねる毎に、異学年の友達の名前と顔が一致し、親密度がアップしてきました。触れ合う機会が多いことによって、低学年の児童は高学年児童に対して頼りがいのあるお兄さん、お姉さんという思いを強めているように見受けられます。その分、6年生は大変です。20数名の異学年の児童が30分間楽しめる時間を毎週企画・運営しなければならないのですから。中には自分達の思うとおりに動いてくれない低学年の児童がいたり、計画通りに進まない場面もあつたりします。そのときも班の担当の教員の支援を受けながら、臨機応変に対応し、問題を解決しようとしている場面をよく見かけます。その過程で調整力・社会性が育まれているように感じられます。

特定の校区をもたない附属小学校。ともすれば児童同士のつながりが希薄になりがちな一面をもっています。だからこそ、学校の中で子どもたち同士の絆をより強いものにしよう、附属小学校の一員であるという帰属意識を高めようという思いから取り組みを始めたわくわくタイム。まずは継続していくことで、子どもたちの社会性の向上を目指していきたいと考えます。



【防犯教室】



不審者に遭遇した場合の対応について学習しました。実際に声をかけられたり、車に連れ込まれそうになったりした場合を想定し、どう行動すればよいか考えました。また、鳥取警察署

のスクールサポーターさんにもアドバイスをいただき、自分の命を守るために気をつけなければならないことを確認しました。

メルポコで何度かお知らせしていますように、今年度も不審者情報がいくつか入ってきています。ご家庭でもお子さんへの声かけを繰り返しよろしくお願いいたします。

【初めての英会話】

3年生になり、英会話の学習が始まりました。今年から英会話の先生は、クレア・パンガナイ先生にお世話になります。子

どもたちは、低学年のときからワールドタイムでアルファベットに親しんでいたこともあり、どきどきしながらも楽しく取り組んでいます。学習中は、クレア先生の言葉を聞き逃さないように耳をかたむけたり、口の形をまねたりしながら、友達や先生と簡単な英語による会話を楽しんでいます。今後も、英会話にさらに親しみをもちながら、生活に根ざした会話を積み重ねていきたいと思います。



